



農のある暮らし

1年を通して、農村をはじめ、まちのあちこちで農業の営みが行われている三田市。

今年も味覚の秋には、黒大豆枝豆などさまざまな農作物の収穫の様子が見られました。

現在のまちの姿ができる前からずっと、三田で大切にされてきた「農」のある暮らし。現在では、学生が農村の暮らしに魅了され、農作業と一緒にったり魅力を発信するなど、農とわたしたちの新しい関わり方も生まれています。

人口減少、少子化、ライフスタイルの変化などにより農業が大きな転換期を迎える中、市でも、市民の皆さんと一緒に「農」のある暮らしについて考えるワークショップを開催しています。

9・10月には、約50人の皆さんに参加いただきました。今年度最終となる第3回は2月初旬に開催！

その前に、ワークショップに参加した皆さんのわくわくと驚きの体験をご紹介します！

問い合わせ＝環境創造課(559-5080 FAX 562-3555)

■ 農業の魅力にせまる！
ワークショップ開催中 ■

ワークショップをレポート！

Report 01

「農」は誰のためのもの？

■ 農の恵み

農業は、私たちが口にする食料をつくっているだけではありません。田畑があることで、水害を防いだり、生産する過程で行われる営みが、里山など良好な自然環境を守っています。農業は私たちの暮らしを豊かにしているのです。

■ 農業の現在

しかし、農家の高齢化や担い手の減少などが深刻な問題となっています。これらにより、耕作されなくなった田畑が増え、生産量の減少のみならず、美しい田園風景を守ることや里山などの自然環境の保全が難しくなっています。

■ 農業のこれから

まちに農があることで三田に住む皆さんがたくさん恵みを受けてきました。これからもずっとそんな暮らしをしていくために、消費者や地域が農業に多様な関わり方をしていくことが必要ですね。



Report 02

三田にとっての農業

かつて、三田市民は大きな決断をしました。農業中心だった田園のまちに、大規模なニュータウンをつくることです。田園の良さも都市の良さも兼ね備えた新しいまち「田園都市」が誕生しました。これにより、豊かな食や自然環境、健康的な生活など、農が近くにあるからこそ叶う暮らしがニュータウンでも実現したのです。

身近に農があることで、私たちは暮らしをどのように楽しむことができるのか、田園都市ができて約40年たった今、改めて、そんな三田ならではの楽しみ方を、このワークショップを通じてイメージしてもらえればと思います。

memo) 三田のまちづくり

市街地が拡大しても、農地は残されていることがわかるね！



1974年(昭和49年)



2013年(平成25年)

★…三田市政府 出典:国土地理院ウェブサイト

県立人と自然の博物館 主任研究員 赤澤宏樹さん



Report 03

体験してみた！

Let's! 農業体験 「黒大豆枝豆」の収穫から商品化する過程をみんなで体験しました！

みんなの元に届くまで

step

01 刈り取る

枝豆って、こんなに枝葉がついているんだ！



葉や枝を切る この作業が一番大変！

02

一定の重さにする 枝の重さがあるので少し重めに計るよ



収穫量の何倍もの枝葉がこんなに！！

形を整えしぼる きれいにしぼるのも一苦労

04

梱包して完成！



/さすがプロの仕上がり！

Report 04

農家さんにきいてみた！

青年農業後継者から成る「三田耕楽クラブ」の西中さんに参加者の疑問にお答えいただきました。

■ Profile

6年前、農家である祖父の他界を機に脱サラし、専業農家へ。農家の高齢化による農業衰退への危機感と食の身体への影響を知り、決意した。「食の安全」に強くこだわる。「農業は努力次第で報われる成長産業分野。農業は楽しい！」と就農希望者にエールを送る。



Q 農業だけで生計はたてられるのですか。

A 私は4人家族で大学生の子どももいますが、農業だけで満足のいく暮らしを送っています。収益をあげるためには多くの田畑を手掛ける必要がありますが、農業は努力に対する見返りが必ずあるのでやりがいを感じます。

Q 規格外品でも直売所などに売れるのでしょうか。

A 過去に出しましたが売れ残りしました。売れ残り、回収や処分など余計に手間がかかり大変です。直接口にするものだから、できるだけ気持ちよく食べてもらえるものを届けたいという思いも強くあります。

Q 枝豆の処理工程の中で、刈った枝葉がたくさん出ました。放っておけば土にかえるのですか。

A 残さとして残ります。葉は枯らして田んぼの中に均等に混ぜ込みますが、病害虫が発生しないよう、混ぜ込める量は限られます。枝は焼却しなければ数年たってもそのままです。

参加者の声

農家さんのお話を直接聞いてよかった。たくさんの思いを込めて作られていることを知った。生産者と消費者が交流できたり、購入時に生産者の情報をもっと分かる仕組みがあれば、農を身近に感じることができるのでは。今日はいつも以上に食への感謝を込めて食べようと思う。(30代・駅前町)

三田の魅力は絶対「農業！」と思い、その良さを実感したくて参加した。良さも苦労も知ることができた。人手不足は体力のある若者が手伝えれば何とかかなと思っていたが、売り物にすることを考えるとノウハウなどをきちんと学ぶことが必要と知った。大変さは予想以上だった。(20代・市内在学)

■ 次回のワークショップは 令和3年2月初旬 開催！

三田の農業と私たちの暮らしについてみんなで意見交換します！
*広報誌1月号でお知らせします